

英語

- I** 解答 問1. (ア)―④ (イ)―① (ウ)―② (エ)―② (オ)―③
問2. (a)―③ (b)―① (c)―④ (d)―② (e)―④
問3. (あ)―① (い)―③ (う)―② 問4. ①, ⑤, ⑧

解説

《ジェンダーの不平等による日本人女性のカナダへの移住》

問1. (ア) 空所を含む文は「彼女は仕事を続けている間は母親になりそうにないと気づいた」となる。be unlikely to do「～しそうにない」

(イ) 空所を含む文は「日本よりカナダのほうが、仕事をもつ母親になりやすい」となる。第1・2段(Yuka Yamamoto…in Vancouver.)に、日本では女性が仕事と出産・育児を両立しにくいこと、第4段第2文(Most of her…)に、カナダでは状況が対照的であることが記されているので、①easierを正解とする。

(ウ) a low number of～「～の数が少ない」

(エ) 空所の直後に「自分は日本の文化に合っていないように感じた」と記されていることから、カナダでの感じ方としては、②「より快適な」が適切。

(オ) take advantage of～「～を利用する」

問2. (a) frustrationは「失望」という意味なので、③「不満」が近い。

①「差別、不公平な扱い」 ②「方向感覚を失うこと、失見当識(時間や場所などの感覚が混乱している状態)」 ④「気を散らすこと」

(b) progressedは「進歩した」という意味なので、①が近い。②「祝った」 ③「減少した」 ④「予想した」

(c) insecureは「不安定な」という意味なので、④が近い。①「不公平な」 ②「なじみのない」 ③「面白くない」

(d) emphasis onは「注目」という意味なので、②「～に対する焦点」が

近い。①「～に関する混乱」 ③「～の拒絶」 ④「～への依存」

(e) concerned は「憂慮している」という意味なので、④に近い。②「混乱した」

問3. (あ) 第6段第2文 (The Asahi Shimbun …) に、日本人が外国で暮らす理由について記されているが、移住者の多さに関する報道に動揺したとは書かれていないことから、①を正解とする。

(い) 第7段第2文 (She says Japanese …) に、日本社会は女性ばかりに子育てや家事を期待していると記されていることから、③を正解とする。

(う) 第11段 (One example of …) に、タトゥーはカナダの職場では問題にならないと記されていることから、②を正解とする。

問4. ①第1段第1文 (Yuka Yamamoto Woods …) に、東京でグランドスタッフとして働いていたこと、第2段第3文 (Most people quit …) に、現在はバンクーバーで別の仕事に就いていることが記されていることから、一致する。

②第3段第1・2文 (Yamamoto Woods, 40, … during that period.) に、この20年間で日本からカナダへ移住した人の76%は女性だと記されていることから、一致しない。

③第4段第1文 (Yamamoto Woods, who …) に、永住者となったのは2006年から数年後ということが記されていることから、一致しない。

④「日本は通常、ジェンダーギャップ指数の年次報告では下位7カ国に入っている」は、第6段第3文 (Japan hasn't progressed …) に、ジェンダーギャップ指数ランキングで日本は約150カ国中120位程度であると記されていることから、一致しない。

⑤第7段第1文 (University of Toronto …) に、2002年に仕事のためカナダに引っ越したことについて記されていることから、一致する。

⑥第10段 (Mika Nakagawa Antonovic, …) に、点字翻訳者として視覚障害のある学生のために働いていると記されていることから、一致しない。

⑦第13段 (Nakagawa Antonovic said …) に、カナダにいるほうが敬意を払われているように感じると記されていることから、一致しない。

⑧第14段第1文 (Gender studies professor …) に、現在はカナダの大学の教授だが以前は東京でも教えていたことがあると記されていることから、一致する。

II

解答

問1. (ア)―④ (イ)―① (ウ)―④ (エ)―③

問2. (a)―③ (b)―① (c)―① (d)―④ (e)―①

問3. (あ)―④ (い)―① (う)―③ 問4. ①, ④

解説

《イギリスで5人に1人は音嫌悪症に悩まされている》

問1. (ア) 「そのような音に対して強い否定的な反応がある」

(イ) ① be a matter of debate 「議論の余地がある」

(ウ) 「多くの人を苛立たせる音はたくさんあるが」

(エ) 「もっと詳しく調べるために」

問2. (a) disorder は「病気, (心や体の) 障害, 不調」という意味なので, ③が近い。

(b) trigger は「～を引き起こす」という意味なので, ①が近い。②「引き抜く」 ③「押し返す」 ④「取り上げる」

(c) plummet to は「急落する」という意味なので, ①が近い。

(d) anxiety は「心配」という意味なので, ④「ストレス, 緊張」が近い。
①「混乱」

(e) prevalent は「広まっている」という意味なので, ①が近い。②「多様な」 ④「まれな」

問3. (あ) ①は第3段第2文 (“Most people with …”) に, ②と③は第6段第1文 (The results reveal …) に記されているが, 研究参加者の20%以上が明らかに音嫌悪症を患っていたとは記されていないことから, ④を正解とする。

(い) ②・③・④は第5段第2文 (Another explored the …) に記されているが, ①「参加者がどのくらいの頻度で嘔んだり, いびきをかいたりしたか」は記されていない。

(う) 波線部(A)は「音嫌悪症にひどく影響を受けていると考えられる人のうち, 14%しかその言葉をそれまで聞いたことがなかった」という意味になることから, ③を正解とする。

問4. ①第2段第1文 (Misophonia is a …) に, 音嫌悪症について記されていることから, 一致する。

②第3段第1文 (“This is the …”) に, Dr Silia Vitoratou はキングス・カレッジ・ロンドンの音嫌悪症に関する研究の主要著者と紹介されている

が、学生時代に初めて研究を読んだとは記されていないことから、一致しない。

③第7段第1文 ((エ) the team…) に、55人にインタビューをしたことが記されていることから、一致しない。

④第7段第1文 ((エ) the team…) に、26人が音嫌悪症と自己診断していたと記されていることから、一致する。

⑤第9段第1文 (What is more, …) に、性別による違いがないことが記されていることから、一致しない。

III 解答 (1)―② (2)―④ (3)―① (4)―① (5)―① (6)―③
(7)―④ (8)―① (9)―④ (10)―①

解説

- (1) 「ヒマラヤ山脈に位置して」
- (2) 「それほど一般的ではないルート」
- (3) 「最初の公式記録に残る登頂成功は1953年まで実現しなかった」
- (4) used to do 「以前～だった」
- (5) how to do 「～する方法」
- (6) ask A to do 「Aに～するように頼む」
- (7) 「パリに滞在している間、多くの美術館を訪れた」
- (8) It is no use doing 「～しても無駄である」
- (9) 「先生の指導がなかったならば」 仮定法過去完了の用法である。
- (10) be based on ～ 「～に基づいている」

IV 解答 (3番目・5番目の順に) (ア)―⑤・② (イ)―②・④
(ウ)―①・③ (エ)―⑥・⑤ (オ)―③・⑥ (カ)―⑥・④
(キ)―②・⑤ (ク)―②・④ (ケ)―③・① (コ)―⑥・⑤

解説

(ア) After finishing his homework(,) he decided to (relax and watch a movie on Netflix.)

decide to do 「～することに決める」

(イ) (The audience) wouldn't stop clapping until the band came (back to play another song.)

stop *doing* 「～するのをやめる」

(ウ) What's your favorite type of movie(?)

favorite 「お気に入りの」

(エ) (The earthquake caused significant damage to the city and) many people were forced to evacuate (their homes.)

be forced to *do* 「～させられる」

(オ) The teacher asked the students to write an essay (about their favorite book.)

ask *A* to *do* 「*A* に～するように頼む」

(カ) (It) seemed extremely difficult to master Russian grammar(.)

seem 「～のようである」

(キ) (This piece of wood) isn't long enough to make a desk(.)

… enough to *do* 「～するほど…」

(ク) I may have dropped it on (my way home.)

may have *done* 「～したかもしれない」

(ケ) (What is) the best thing that has ever happened to (you so far?)

that は the best thing を先行詞とする関係代名詞である。

(コ) (I wonder if) it is worth getting this computer repaired(.)

worth *doing* 「～する価値がある」